

## カリキュラム・マネジメントの在り方に関する研究

「社会に開かれた教育課程」の実現を通じて子どもたちに必要な資質・能力を育成するという平成29年に公示された学習指導要領等の理念を実現するために、各学校において「カリキュラム・マネジメント」の確立が求められる。本研究では、カリキュラム・マネジメントの取組を七つのステップに分け、ステップごとに活用できるワークシート等のツールを開発した。そのツールを使いながら、研究協力校6校においてグランドデザインを策定し、育成を目指す資質・能力と関連付けた授業改善に取り組んだ。

<検索キーワード> カリキュラム・マネジメント 学校教育目標 育成を目指す資質・能力シート 現状把握 グランドデザイン 重点目標 授業改善

### 研究協議会顧問

名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授 柴田 好章（平成30年度、令和元年度）

### 研究協議会委員

一宮市立今伊勢小学校教諭 栗野 覚（平成30年度、令和元年度）

大府市立東山小学校教諭 友田 彰彦（令和元年度）

大府市立東山小学校教諭（現大府市教育委員会指導主事） 有賀美智留（平成30年度）

愛西市立永和中学校教諭 柴田 竜也（令和元年度）

愛西市立永和中学校教諭（現蟹江町教育委員会主幹） 畠山 良明（平成30年度）

新城市立八名中学校教諭 原 正樹（平成30年度、令和元年度）

県立稲沢高等学校教諭 森平 清源（平成30年度、令和元年度）

県立東浦高等学校教諭 玉田 裕（平成30年度、令和元年度）

総合教育センター教科研究室長（現県立豊田工業高等学校教頭） 近藤 哲史（平成30年度）

総合教育センター研究指導主事（現安城市立東山中学校教頭） 香村 直廣（平成30年度）

総合教育センター研究指導主事 大成 康臣（平成30年度、令和元年度）

総合教育センター研究指導主事 原田 挙志（令和元年度）

総合教育センター研究指導主事 岩月 浩子（令和元年度）

総合教育センター研究指導主事 林 栄治（平成30年度、令和元年度主務者）

## 1 はじめに

近年のグローバル化は社会に多様性をもたらし、また、急速な情報化や技術革新は人間生活を質的にも変化させつつあり、こうした社会的変化の影響が、身近な生活も含め社会のあらゆる領域に及んでいる。

こうした中、平成29年に公示された学習指導要領の「総則」において、育成を目指す資質・能力は、「何ができるようになるか」という観点で「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に整理された。これらの資質・能力を育むためには、各教科等の学びの中

で身に付けていく力と、教科等横断的に身に付けていく力とを相互に関連付けていく、カリキュラム・マネジメントが必要となる。教員一人一人が、子どもたちの発達の段階や発達の特性、教科等の学習内容や単元の構成、学習の場面等に応じた指導方法について研究を重ね、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善に取り組むことが大切になる。

本研究では、自校の現状と課題を把握し、その改善を図りながら教育目標の実現を目指したカリキュラム・マネジメントに全教職員で取り組むための組織と手法について研究を進めた。また、学校の教育目標（目指す子どもの姿）の実現に向けて、育成を目指す資質・能力を明確にした授業改善や評価に取り組んだ。

これらの結果を総括して、より現実的・効果的なカリキュラム・マネジメントのモデルを提案することを目指した。

## 2 研究の目的

本研究では、自校の現状と課題を把握し、その改善を図りながら全教職員により教育目標の実現を目指したカリキュラム・マネジメントに取り組むための組織と手法について探る。その際、研究協力校において各学校種の特徴を踏まえた実践研究を行うことで、カリキュラム・マネジメントについての考え方や手法について共有し、カリキュラム・マネジメントの理解を深め、円滑に導入するための方策を探る。

## 3 研究の方法

### (1) 「グランドデザイン」の策定のために、必要なツールの開発とリーフレットの作成

『幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等についての答申（平成28年12月21日）』において、「カリキュラム・マネジメント」の中心となるものとして述べられている「グランドデザイン」の策定のために、必要なツールを開発する。研究協力校において活用し、ツールの有効性や効果の検証、そしてリーフレットを作成する。

### (2) 育成を目指す資質・能力と関連付けた授業改善

平成29年に公示された学習指導要領では、各学校は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、各教科等の学びを通じて「何ができるようになるのか」という観点から、育成を目指す資質・能力との関連付けた授業改善が求められている。

本研究では、グランドデザインを基に学校全体として育成を目指す資質・能力を明確にし、その実現に向けて、関連する各教科等の改善を図るとともに、教科等における具体的な指導内容によって育まれる資質・能力の関係性を可視化していく。そして、学校の教育目標の実現に向けて、各学校種の実態に応じた育成を目指す資質・能力と関連付けた授業改善を行う。

### (3) 育成を目指す資質・能力と関連付けた二つの評価

育成を目指す資質・能力の向上に向けた取組を二つの観点で評価する。一つは、学校の教育活動全体を通し、重点目標を達成するための取組について、焦点化して評価を行う。もう一つは、教育目標に近づいているかどうかについて、授業改善による子どもの成長の姿を見取ることにより評価をしたり、アンケート調査、全国学力・学習状況調査等の結果を基に評価をしたりする。

## 4 研究の内容

### (1) グランドデザインの作成のためのツールの開発と手法

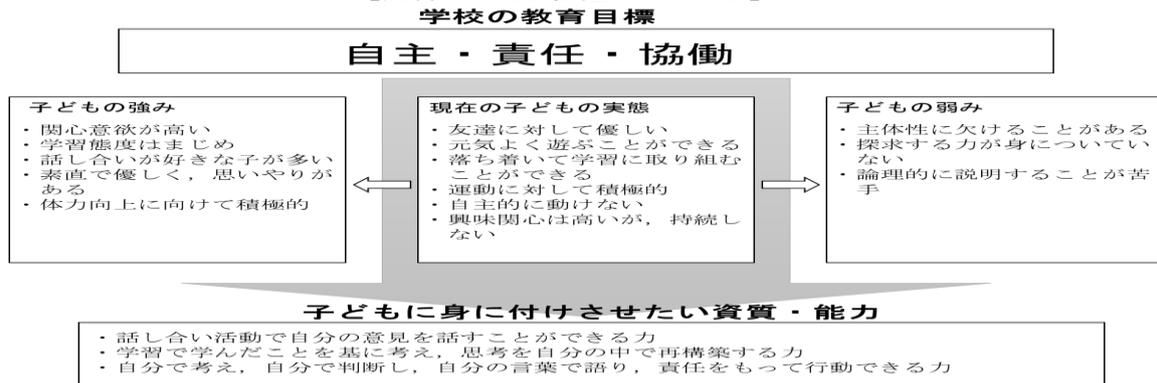
学校の教育目標（目指す子どもの姿）を実現するために、カリキュラム、組織構造、組織文化、教員、保護者や地域等のつながりを把握、検討、分析するツール（各種シート）を開発して、グランドデザインを作成する手法について検討し、その効果を検証する。

ア 学校の教育目標（目指す子どもの姿）の実現に向けた現状の把握・検討

各学校において、子どもの実態、教育課程の編成・実施・評価及び改善に関する課題がどこにあるのかを三つのシートを用いて明確にする。

一つ目は、「現状把握シート」である（資料1）。このシートを使うことで、子どもの実態や教師の願いから、目指す子どもの姿を全教職員で明確化し、共有化する。

【資料1 現状把握シート(例)】



二つ目は、「SWOT分析シート」である（資料2）。このシートを使うことで、学校の内部環境と外部環境の具体的な状況を「強み」と「弱み」に分類・整理し、自校の特色づくりに向けた取組を検討する。

三つ目は、「カリキュラム・マネジメント検討用シート」である（資料3）。このシートを使うことで、学校教育目標の実現という視点で、自校の教育課程等の実施状況を検討し評価して、現状と課題、解決策を全教職員で共有する。

三つのシートを使って、全教職員間で共有することで、学校教育目標を実現するという視点で学校のカリキュラム全体を見直す。

【資料2 SWOT分析シートの一部(例)】

学校の教育目標 <b>自主・責任・協働</b> 自校の子どもに身に付けさせたい資質・能力 自分の考えをもち、共に学び、共に力をつける	
自校における内外環境の要因配置 (プラス要因)	(強み)
外部環境 ・地域・保護者が協力的 ・積極的に関わっている	内部環境 ・優しくのびのびしている ・物事を素直に吸収 ・自校給食である。
外 ・学校への思いが強すぎて学校活動とかみ合わないことがある。 ・大人の手が入りすぎている	内 ・主体的に動けない ・他人に意見を上手に伝えられない
(マイナス要因)	(弱み)

※学校組織マネジメント研修～すべての教職員のために～（モデル・カリキュラム）（マネジメント研修カリキュラム等開発会議 平成17年2月発行）

【資料3 カリキュラム・マネジメント検討用シートの一部(例)】

質問 学校の教育目標はどのくらい実現されていますか。

( ) 4 期待以上の成果が出つつある ( ✓ ) 3 おおむね予定どおり成果が出つつある

( ) 2 あまり成果が出ていない ( ) 1 ほとんど成果が出ていない

本シートを活用して、カリキュラム・マネジメントの全体像（構成要素と要素間のつながり）を理解するとともに、勤務校の実践について、よさや課題、改善方策を考えていきます。まず、カリキュラム・マネジメントの基本的な実践の状況について勤務校の実態を評価してください。下表の「要素」は、「分析シート」内の各要素に対応しています。「項目」は各要素を代表するような具体的な実践項目の例です。4段階で評価し、「評価できる点」、「改善が必要な点」、「解決策」等を書き込んでください。

要素	項目	評価				備考
		4	3	2	1	
ア 教育目標	1 学校全体の学力傾向やその他の実態、課題について、全教職員が共有している。	✓				評価できる点については○を付し、改善が必要な点については▲を付す。 解決策やその他、気付いたことについても記入してください。
	2 学校の教育目標や重点目標は、児童や地域の実態を踏まえて設定されている。	✓				
	3 学校の教育目標や重点目標には、「児童に身に付けさせたい力」や「めざす児童像」が具体的に記述されている。	✓				
カリキュラムのPDCA	4 学校経営案や学年・各教科の指導計画等に示す目標や内容等は、それぞれが連動するよう作成されている。				✓	▲学校経営案、学年経営案、教科等の年間計画は、学校の教育目標や重点目標を踏まえて作成しているが、それぞれ担当者が作成するため、連動性や相互関係が分かるようになっていない。
	学校経営案や学年・各教科の指導計画等に示す目標や内容の相互関係が一目で分かる					

## イ 分析・可視化

教育課程等を検討し評価して見えてきた課題に対しての解決策を「カリキュラム・マネジメント実行策対策シート」を用いて、学校教育目標を実現するための効果の大きさや着手の容易さなどを比較し、より着手が容易で効果が大きいと考えられる実行策を決める（資料4）。

これらの分析を基に、「カリキュラム・マネジメント分析シート」を用いてカリキュラム・マネジメントの全体像を把握し、教育課程等のつながりを俯瞰的に見ることにより、学校よさや課題、解決策等を全教職員で共有する（資料5）。

【資料4 カリキュラム・マネジメント実行策対策シートの一部（例）】

取組	容易 ←
大	<p>③○学校の教育目標に関連づいた特色ある行事を取り入れ、教科と関連付けている。</p> <p>①▲授業研究が、教科固有の資質・能力の育成に特化してしまい、他教科で取り入れるのが難しい。</p> <p>①▲担任は年1回授業研究を行っているが、授業研究が学校として取り組むというより個人の授業研究として取り組んでいる。</p>
	<p>②▲学力状況調査の分析結果は、全職員に伝えるが、指導計画や指導法の見直し、改善までは行っていない。</p>

【資料5 カリキュラム・マネジメント分析シートの一部（例）】

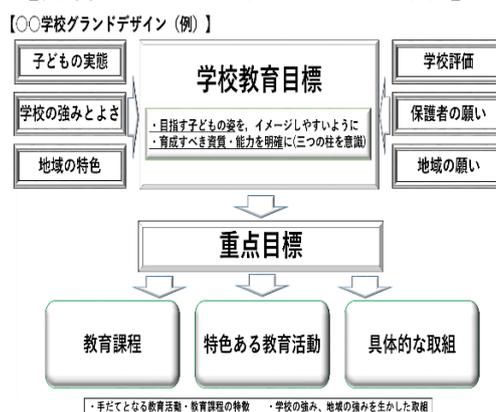
ア. 教育目標	
4	<p>自主・責任・協働</p> <p>自校の児童・生徒につけさせたい資質・能力</p> <p>③ ・話し合い活動で自分の意見を話すことができる力 ・学習で学んだことを基に考え、思考を自分の中で再構築する力</p> <p>2 ・自分で考え、自分で判断し、自分の言葉で語り、責任をもって行動できる力</p> <p>1 設定・共有化の様子 実現化の状況</p> <p>○学校の教育目標に具体的な生徒像が書かれている。 ○ 道徳の授業研修が中心となって全校体制で取り組んでいる。</p>
① 反映      ② 成果	
イ. カリキュラムのPDCA	
4	<p>③ ○年度当初に学校の方針、現職教育の方向性を示している。 ○学期の初めに評価基準・方法を計画している。</p> <p>▲学校経営案、学年経営案、教科等の年間計画は、学校の教育目標や重点目標を踏まえて作成しているが、それぞれ担当者が作成するため、運動性や相互関係が分かるようになっていない。 ▲教員の校務分掌が変わらず、担当教員が計画したり、修正・把握したりするので、共通理解が図られない。</p>
2	<p>○学校の教育目標に関連づいた特色ある行事を取り入れ、教科と関連付けている。 (授業後に、職員間で児童の生活の様子や学習計画について)</p> <p>▲行事が多く、児童だけでなく教員の負担になっている。</p>
1	<p>Plan (計画の様子)</p> <p>Do</p>

## ウ グランドデザインの作成

学校の教育目標を実現するために、分析した現状の課題に対し重点目標を出発点として、創意工夫した特色ある学校づくり、カリキュラムづくりの取組を具体的に分かりやすく表したグランドデザインを作成する（資料6）。これにより、学校として「何を大切にしているか」を明確に示し、「学校の経営ビジョンと課題意識」を教職員だけでなく、子ども・保護者・地域も含め共有する。

グランドデザインを策定するまでの手順とシートをまとめた（図1）。

【資料6 グランドデザイン（例）】



【図1 グランドデザインを策定するまでの手順とシート】



(2) 育成を目指す資質・能力と関連付けた授業改善

グランドデザインを基に、学校の教育目標の実現に向けて学年・教科等でのような資質・能力を育成するのかを明確にし、授業改善につなげる。

ア 各学年の重点目標の具現化と教科等で育成できる資質・能力の焦点化

学校の教育目標を実現するために、重点目標を各学年の発達段階に応じて具現化する。また、教科等で重点的に育成を目指す資質・能力を「各教科でのカリキュラム・マネジメントシート」を用いて焦点化する（資料7）。

イ 教科等横断的な視点

学校の教育目標の実現に向けて、育成したい資質・能力において各教科での学習をどのようにつなぎ、関連付けていくかを検討する。そして、教科等横断的なつながりや関連性を「資質・能力の育成に向けたカリキュラム・マネジメントシート」を使い可視化する。学校の教育活動の特色である「強み」を生かしたり、内容的な関連性や目標（資質・能力）に着目し、教科間をつなぐ活動を取り入れたりすることで、全教職員で共通理解して、教科等横断的な学習を実現する（資料8）。

ウ 育成を目指す資質・能力との関連を意識した授業実践

日々の授業において、目指す子どもの姿の実現に向けて育成を目指す資質・能力を意識して取り組む。各教科の授業においても、単元や本時のねらい、活動、学習成果等の指導計画を作成する際に、「単元レベルでの資質・能力チェックシート」を用いて、目指す子どもの姿を常に意識できるようにする（資料9）。

グランドデザインを基にした授業改

【資料7 各教科でのカリキュラム・マネジメントシート】

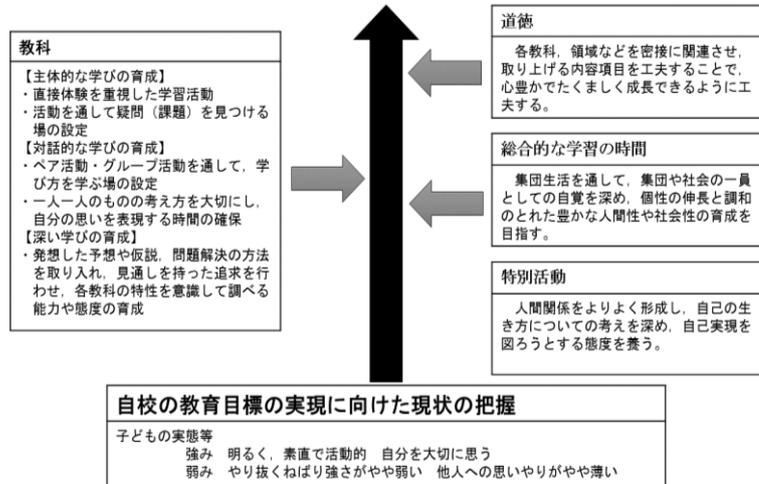
学校教育目標		
自主・責任・協働		
重点目標（子どもに身に付けさせたい資質・能力）		
自分の考えをもち、ともに学び、ともに力をつける		

(教科等での育成を目指す資質・能力)

教科	学年	(知識・技能)	(思考力・判断力・表現力等)	(学びに向かう力・人間性等)
理科	1	実験・観察に対して目的意識をもって取り組むことができる。	実験・観察の方法や結果の予想、考察などをグループで話し合うことができる。	実験・観察の結果を科学的な根拠に基づいて、考察しようとしている。
	2	実験・観察に対して目的意識をもって取り組み、意欲的に探究することができる。	実験・観察の方法や結果の予想、考察などをグループで話し合い、仲間の考えに耳を傾け、理解を深めることができる。	実験・観察の結果を科学的な根拠に基づいて考察し、規則性を見出したり、課題を解決したりしようとしている。
	3	実験・観察に対して目的意識をもって取り組み、意欲的に探究することができる。	実験・観察の方法や結果の予想、考察などをグループで話し合い、仲間の考えに耳を傾け、理解を深め、技能を身につけることができる。	実験・観察の結果を科学的な根拠に基づいて考察し、規則性を見出したり、課題を解決したりし、その知識を身近な現象と関連付けて考えようとしている。

【資料8 資質・能力の育成に向けたカリキュラム・マネジメントシート】

学校教育目標
自主・責任・協働
自校の子どもに身に付けさせたい資質・能力
自分の考えをもち、ともに学び、ともに力をつける



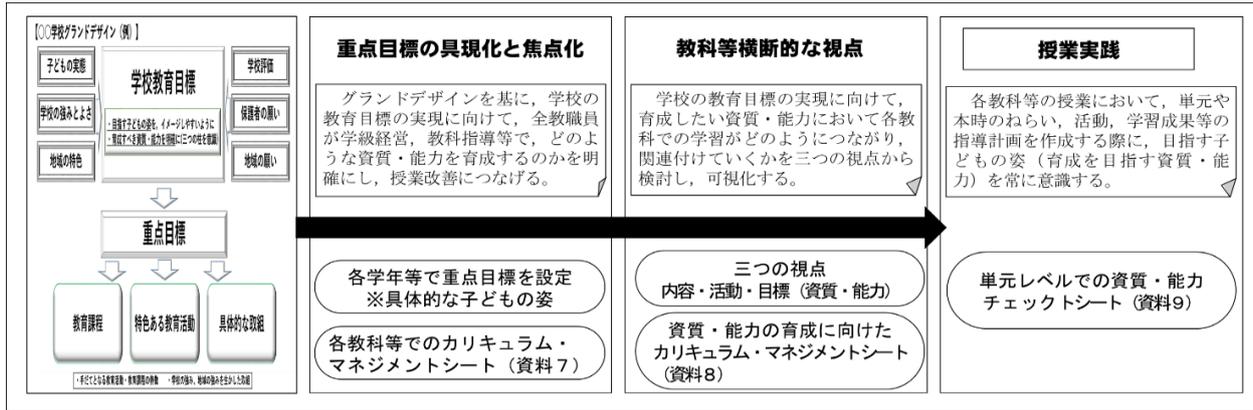
【資料9 単元レベルでの資質・能力チェックシート(例)】

小学校6年理科 三つの柱 または 単元「ものの燃え方」 各教科等固有の見方・考え方 子どもに身に付けさせたい資質・能力

方法	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう人間性	表現力	思考力	協力	コミュニケーション
木や紙の燃えるようす		●		○			
びんの中で燃えるようす		●			○		
物を燃やすはたらきがある気体	●				○		
やってみよう			●	○			
物が燃えたあとの空気	●	●				○	
確かめよう			●				○

善に用いるシートをまとめた（図2）。

【図2 グランドデザインを基にした授業改善に用いるシート】



(3) 学校の教育目標の実現に向けた取組の評価・改善

ア 学校の教育活動全体を通じた取組の評価

学校全体の取組について、「カリキュラム・マネジメント検討用シート」、学校評価等を用いて、全教職員が育成を目指す資質・能力の視点から評価を行い、教育目標の再認識、計画の見直し、実施方法の検討を行う。

イ 「学校教育目標（目指す子どもの姿）に近づいているかどうか」の評価

学校教育目標（目指す子どもの姿）に近づいているかどうかについて、授業改善による子どもの成長の姿を見取ることによって評価したり、テストやアンケート調査等の結果から評価したりする。

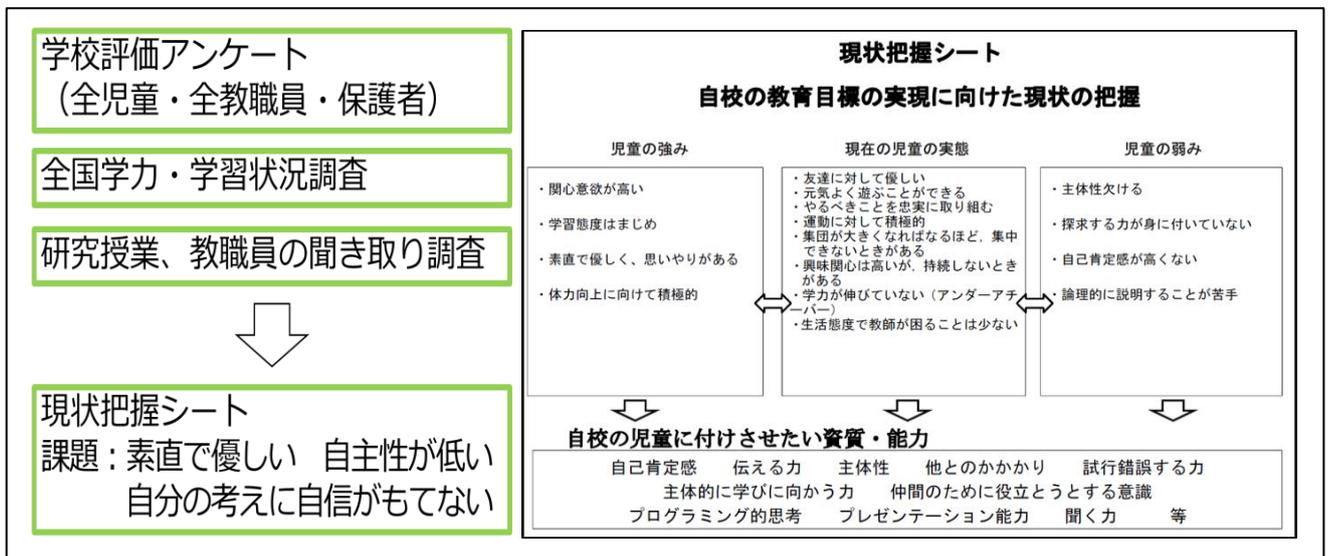
(4) 研究協力校における実践例

研究協力校（小学校2校，中学校2校，高等学校2校）において，ツールを用いたグランドデザインの策定，育成を目指す資質・能力と関連付けた授業実践，評価を行った。

ア 現状把握シートの実践例（大府市立東山小学校）

児童の実態を把握するために，学校評価アンケート，全国学力・学習状況調査，研究授業や教職員の聞き取り調査を基に，児童の実態を現状把握シートにまとめた。これらの調査を1枚のシートにまとめたことで，「素直で優しいが自主性が低く，自分の考えを発表することに，自信がもてない児童が多い」という児童の強み・弱みを全教職員で共有することができた（資料10）。

【資料10 現状把握シートの作成（例）】



イ カリキュラム・マネジメント検討用シートの実践例（県立東浦高等学校）

カリキュラム・マネジメント検討用シートを用いて現状把握を行った。ただ、カリキュラム・マネジメント検討用シートは、定められた項目について4段階で回答するので、客観的で経過を測定するには向いているが、一方で独自の課題について知ることは難しい。そこで、校長と教職員との面談で挙げられた本校の課題のまとめと、全教職員に対してのアンケートを実施した（資料11）。

これらの結果は、今後東浦高校をどのように改善していけばよいのかという点で参考になった。そして、新たに教育目標を検討する際に、3年後に迎える創立50周年に向けた目標を考えた。

【資料11 本校の課題についてのアンケート（抜粋）】

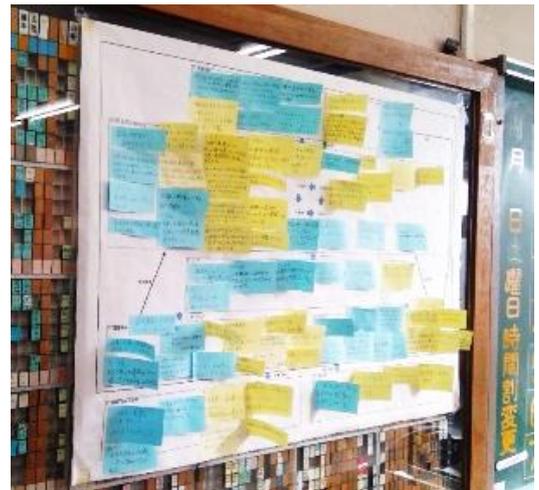
質問2 以下の項目について、「評価」欄に4段階で当てはまるものに○を記入してください

C【本校の課題】

要素	項目	評価			
		4	3	2	1
		3.25~	2.5~	1.75~	~1.75
教務関係の課題	1 現在の少人数展開を維持すべきだと思う	平均 3.5↑			
	人数	21	11	4	0
	2 授業時数の確保をしっかりとすべきだと思う	平均 2.7↓			
	人数	7	16	8	4
	3 特別進学クラスの在り方を検討すべきだと思う	平均 3.6↑			
	人数	25	9	1	1
	4 生徒に家庭学習の時間を十分に確保させるべきだと思う	平均 3.3↑			
	人数	14	18	2	3
	5 定期考査問題の難易度を上げるべきだと思う	平均 2.6→			
人数	4	17	12	3	
6 学習に対する意欲、理解力をもっと高めるべきだと思う	平均 3.3↑				
人数	15	19	1	1	
7 成績上位の生徒の満足度をより向上させるべきだと思う	平均 3.4↑				
人数	19	12	1	2	
8 各種の現職研修に力を入れるべきだと思う	平均 2.6↓				
人数	5	13	12	4	
9 学習指導にもっと力をいれるべきだと思う	平均 2.9↓				
人数	8	21	4	3	

ウ カリキュラム・マネジメント分析シートの実践例（県立稲沢高等学校）

総合教育センター所員を外部講師として招き、7月末に作成したカリキュラム・マネジメント検討用シートの分析結果（数値）をまとめたカリキュラム・マネジメント検討用シートを基に、全教職員でのグループ協議を通して、学校の現状分析を行った。その場で意見集約して、グループ発表を行った。グループ協議で集約した意見を基に、自校の強み・弱みを色分けした付箋に書き、カリキュラム・マネジメント検討用シートの項目別に台紙に貼ってまとめ、職員室に掲示した（写真1）。このまとめとSWOT分析を基にして、カリキュラム・マネジメント分析シートを作成した。問題点の洗い出しとともに、分析結果を参考にしてグランドデザインの作成を開始した。



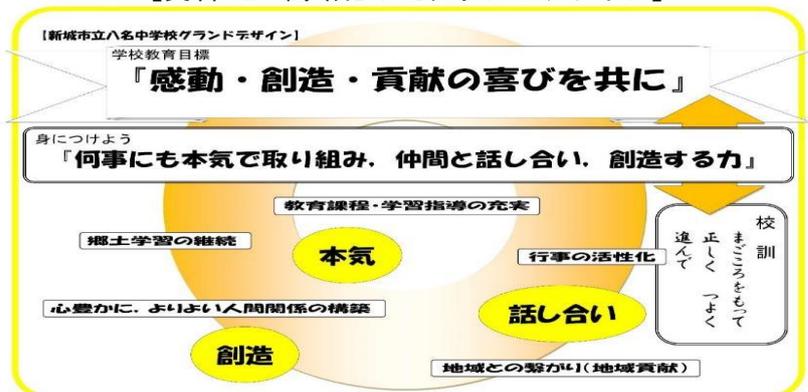
【写真1 グループ協議での成果物】

エ グランドデザインの共有の実践例（新城市立八名中学校）

重点目標達成に向けた活動を生徒とともに行っていきたいという考えから、グランドデザインを全教室に掲示して意識を高めた。また、グランドデザインを簡略化した生徒・保護者用をPTA総会の折に保護者に配付して、学校の活動への理解を促した（資料12）。

また、校長が学校の経営方針や

【資料12 簡略化したグランドデザイン】



教育目標について、全校集会で生徒目線に立った講話をし、教育目標「感動・創造・貢献の喜びを共に」について、校長の思い、生徒に望むこと等の話をされた（写真2）。「昨年の教育目標を知っているか」と尋ねても、ほとんどの生徒が意識していないため記憶に残っていない状況であったが、生徒は真剣な眼差しで集中して講話を聴いている様子だった。この講話から、「1年間、がんばるべきこと」が伝わり、それは、学級活動の級訓に反映された。各学級の級訓は、この1年間、「感動・創造・貢献を共に」という目標を掲げ、授業や行事、特別活動等に取り組んでいきたいという、生徒の思いがこもった級訓となった（資料13）。



【写真2 校長の学校目標についての講話】

【資料13 級訓の例】

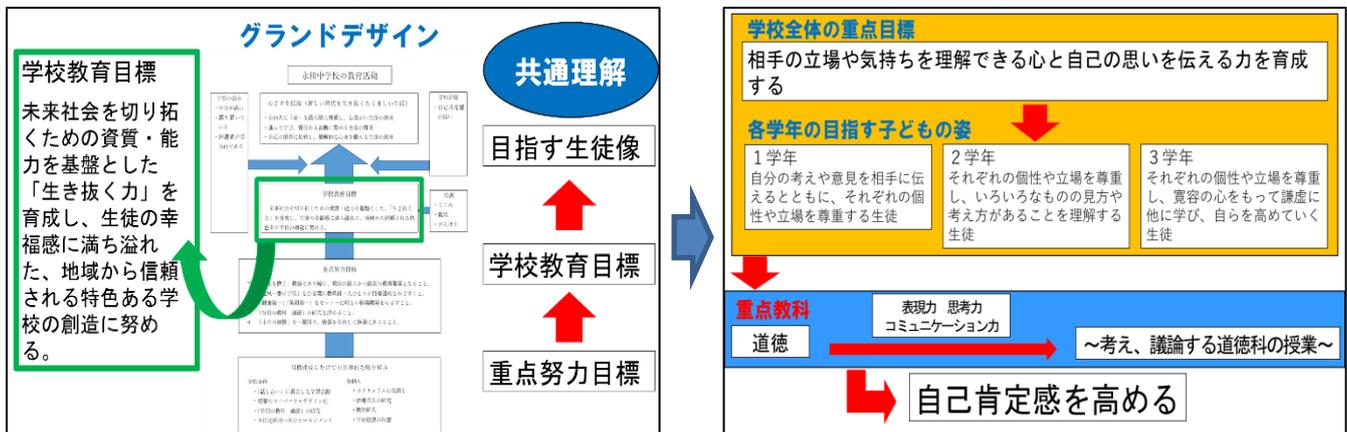
1年A組 「パズル～18ピースの仲間～」

クラスの仲間一人一人の個性が一つのピースとして、クラス全員で一つのパズルを作り上げるように、達成感や成就感などの感動をピースとして積み上げ、1年間で最高のパズルに仕上げられるように努力していきたいという意味である。また、クラスのパズルを作り上げ、仲間と助け合い、支え合うことで、さまざまなものを創造する力、学校や地域のために活動する力に「チェンジ」していくと考える目標を設定した。今年八名中学校1年目、中学校生活に慣れ、仲間と協力して感動できる活動につなげるとともに、心を成長させ、高め、何事にも本気で取り組むことができるようにしたいという思いを級訓に込めた。クラス全員で力を合わせ、パズルの精神で学校生活を送り、どのクラスにも負けないチームワークのクラスを目指す。

オ 重点的に取り組む教科を焦点化した実践例（愛西市立永和中学校）

グランドデザインはできるだけ情報を焦点化して、関係がよく分かるようにした。これを現職研修で教職員に説明し、学校の課題や学校の強みが学校目標・目指す生徒像にどうつながるかを共通理解した。学校教育目標に迫るために、人間関係をうまくつくることできないという生徒の現状や、「相手の立場や気持ちを理解できる心と自己の思いを伝える力を育成する」という学校全体の重点目標、各学年の目標を意識して、学校の教育目標（目指す子どもの姿）を実現するために重点的に取り組む教科・領域について検討した。その結果、「道徳」を重点教科とし、特に、「表現力、思考力、コミュニケーション力など」を育成するために、「考え、議論する道徳科」の授業に取り組むことにした。各教科とも関連させ、話し合い活動に重点的に取り組むことで、コミュニケーション力や自己肯定感を高め、学校教育目標に迫ることとした（資料14）。

【資料14 グランドデザインから重点教科を焦点化】



カ 重点目標を意識した指導案の工夫をした実践例（新城市立八名中学校）

【資料15 指導案の一部】

教科ごとに焦点化した重点目標を意識して授業を行えるように、指導案の中にカリキュラム・マネジメントの視点を取り上げていった。本時の指導の中で重点目標に関する活動を取り上げ、「本気」「話し合い」「創造」の具体的な生徒の姿が明確になるような指導案にした。

指導案の「5 身に付けたい力」では、重点目標に関する活動をどの小単元で行うのかを示した（資料15）。

「本時の指導」では、他教科のつながりを示し、教科等横断的な内容であることを指導案の中に明記することにした。また、他教科との関係については、4月に作成した年間指導計画の「他教科とのつながり」の欄から引用し、生徒に他教科の既習内容を質問したり、教師が意図的に関連した内容を提示したりできるようにした（資料16）。

5 身に付けたい力						
(1) カリマネ観点からの重点目標						
本気	話し合い	創造				
・実験・観察に対して目的意識をもって取り組み、意欲的に探究することができる。	・実験・観察の方法、結果の予想、考察などをグループで話し合い、仲間の意見を耳を傾け、自分の考えや見方を広げ、考えを再構築することができる。	・実験・観察の結果を考察し、規則性を見出したり、課題を解決したりし、その知識を身近な現象と関連付けて考えることができる。				
(2) 単元評価表 (○教科目標に対する評価、●カリマネ観点からの重点目標に対する評価)						
	学びに向かう力 人間性	知識 技能	思考力 表現力 判断力	本気	話し合い	創造
1. 仕事とは何か		○	○	●	●	
2. エネルギー	○	○	○	●		●
3. 力学的エネルギーの保存		○				●
4. エネルギーとその移り変わり	○		○	●	●	●
5. エネルギーの保存と利用の効率		○	○		●	●
6. 熱エネルギーの効率的な利用		○				●

【資料16 指導案の一部】

時間	学習活動【◆発問 ○生徒の反応 ※教師の支援】	評価★カリマネ視点【】
5分	◆振り子の動きを確認しよう。 ○振り子は最も低い部分で運動エネルギーが最大になり、スピードが速くなる。 ○運動エネルギーが位置エネルギーに移り変わった。 ◆位置エネルギーと運動エネルギーの移り変わりが見られるジェットコースターについて考えよう。	※実際の振り子の運動を観察させ、前時の学習ポイントを確認する。 ※動画を基に、球のスピードと高さの変化を考えさせる。
15分	◆既習事項や生活体験を基にどちらのコースが速く球がゴールするのか考えよう。 ○一気に落ちた方が斜面に沿う力が加わり続けるからaの方が速いはず。だから、速くゴールするのはa。 ○bは途中で平面になるから、その分球が加速できないと思うから、スピードはでない。 ○同じでしょう。同じ高さだから。位置エネルギーは同じで運動エネルギーに変わるはずだから。 ○実際にやってみよう。	★本気 生徒の興味を引く課題を提示し、自然現象を論理的に考え省面する面白さを味わわせる。 ★話し合い 共通の体験を基に自分の考えを深めたり、広げたりする。 コースa コースb 課題に対して意欲的に探究し、根拠を基に自分の考えをもつことができたか。(ノートの記述・発言から)
10分	◆同時に球を転がす演習実験を観察し、なぜ同じ速さになるのか考察しよう。	

キ カリキュラム・マネジメント検討用シートを用いた評価の実践例（一宮市立今伊勢小学校）

(ア) 教職員の意識変化

平成30年度と令和元年度1,2学期末に、カリキュラム・マネジメント検討用シートを、全教職員に実施した（資料17）。令和元年度2学期末の結果は、33項目中28項目で、これまでの中でいちばんよい数値となった。特に、「学校全体の学力傾向やその他の実態、課題について、全教職員が共有している」「学校の教育目標や重点目標には、『児童に身に付けさせたい力』や『めざす児童像』が具体的に記述されている」において、最高値が得られたことから、2学期末には学校としての取組になりつつあることが見て取れた。

また、令和元年度1学期末に下がったPDC Aサイクルにおける、Cに関する項目も、全ての項目で数値が上昇した。これまでの取組を通して、授業改善につなげようとする思いの表れであると考えられる。一方で、日々の教材研究、いろいろな行事や事務処理に時間がかかることも含め、働き方改革・多忙化解消の見直しの必要性も感じた。

【資料17 カリキュラム・マネジメント検討用シートの数値による意識の変化(抜粋)】

		H30始	H30後	R1 1学期末	R1 2学期末
1	学校全体の学力傾向やその他の実態、課題について、全教職員が共有している。	67%	79%	88%	97%
2	学校の教育目標や重点目標は、児童や地域の実態を踏まえて設定されている。	88%	100%	94%	94%
3	学校の教育目標や重点目標には、『児童に身に付けさせたい力』や『めざす児童像』が具体的に記述されている。	94%	92%	97%	97%
4	学校経営案や学年・各教科の指導計画等に示す目標や内容等は、それぞれが連動するよう作成されている。	82%	96%	97%	97%
5	学校経営案や学年・各教科の指導計画等に示す目標や内容の相互関連がはかられている。	88%	96%	97%	97%
6	学習成果の評価(規程や方法、時期など)について、年度当初に計画している。	82%	100%	100%	100%
7	あなたの学校は、学校の教育目標や重点目標を意識して授業や行事に取り組んでいる。	85%	92%	97%	97%
8	あなたの学校は、学年・各教科等に示す目標や内容の相互関連を意識して、日々の授業を行っている。	82%	92%	82%	91%
9	あなたの学校は、既習事項や、先の学年で学ぶ内容と関連(系統性)を意識して指導している。	79%	83%	85%	97%
10	あなたの学校は、学校の年間指導計画の改善に役立つような記録(メモ)を残している。	61%	71%	64%	79%
11	児童の学習成果の評価だけでなく、教育課程や授業の評価も行っている。	67%	58%	55%	76%
12	学校として取り組んでいる授業研究が学校の課題解決に役立っているかについて評価している。	79%	75%	82%	91%

#### (イ) 児童の意識変化

2学期末、学校評価アンケートを児童に実施した。結果はほぼ全ての項目において昨年度末に行った結果を上回り、一昨年度の結果をも上回った（資料18）。学校全体での取組が、徐々に児童にも浸透し始めたと考えられる。しかし、最高値となったものの、「はい」と答えた児童の割合が70%に満たない項目がほとんどであったため、更に自信をもたせるための手だてを考え、継続的に指導に当たる必要性を感じた。

【資料18 児童アンケート結果(学校評価アンケートから)の推移(抜粋)】

	H29					H30					R1 2学期末				
	A	B	C	D	無	A	B	C	D	無	A	B	C	D	無
1 学校(がっこう)はたのしいですか。	73%	22%	4%	1%	0%	67%	26%	4%	2%	1%	75%	21%	3%	1%	1%
3 将来(しょうらい)の 夢(ゆめ)や 目標(もくひょう)を もって いますか。	87%	12%	0%	0%	1%	85%	14%	0%	0%	2%	86%	13%	0%	0%	1%
5 自分(じぶん)には よいところがあると おもいますか。	45%	41%	10%	3%	1%	44%	39%	10%	5%	1%	50%	34%	9%	6%	1%
6 本(ほん)を よむことは すきですか。	62%	27%	7%	3%	1%	55%	31%	9%	5%	1%	58%	28%	8%	4%	1%
7 授業中(じゅぎょうちゆう) 先生(せんせい)の話(はなし)や ともだちの 発表(はっぴょう)を しっかりと きいて いますか。	63%	33%	3%	0%	0%	62%	32%	5%	0%	1%	66%	31%	3%	0%	1%
8 みんなの 前(まえ)で 自分の かんがえを はっきりと はなせますか。	36%	40%	19%	4%	1%	34%	37%	22%	6%	1%	41%	37%	17%	4%	1%
9 ノートに ていねいな 字(じ)で かいて いますか。	41%	40%	15%	3%	1%	43%	36%	16%	4%	1%	44%	36%	16%	4%	1%
10 授業(じゅぎょう)は よく わかりますか。	56%	33%	8%	1%	1%	53%	34%	10%	2%	1%	58%	32%	7%	2%	1%

## 5 研究のまとめと今後の課題

各種シートは、学校の教育目標の実現に向けて、カリキュラム、組織構造、組織文化、教職員、保護者や地域等のつながりを把握、検討、分析するのに効果があった。特に、全教職員で分析・検討したことで、学校の教育目標の実現に向けた課題が明確化、共有化され、取り組むべき目標を具体的なものにすることができた。それによって、育成を目指す資質・能力と関連付けた授業改善にもつなげていくことができた。また、学校の教育目標を意識したことにより、教科等横断的な視点でPDCAサイクルを確立することができた。

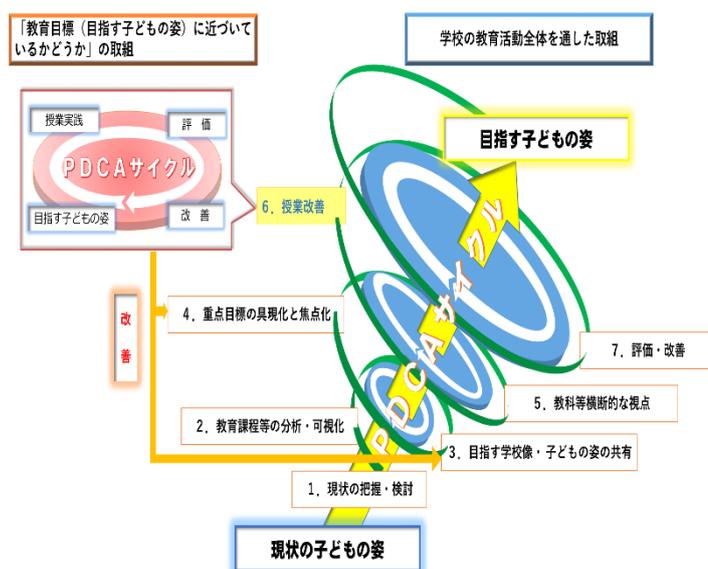
カリキュラム・マネジメントは、グランドデザインや他教科との関連を意識した教育課程等を、一度計画して終わりではなく、常に「実施→評価→改善」というサイクルで循環させることが大切である。

今後は、学校教育活動全体の大きなサイクルと、学年や教科、一人一人の教職員の取組の評価・改善とを結び付けて、効果的に教育活動を展開していくための手法について研究を進めていきたい（図3）。

なお、研究協力校における実践を基に、リーフレットを作成した。このリーフレットを研修講座や学校支援、また、県内の学校における校内研修等で活用することにより、各学校がカリキュラム・マネジメントを促進し、子ども

に身に付けさせたい資質・能力の育成を図るようにはしていただければ幸いである。

【図3 PDCAサイクルのモデル】



## 6 おわりに

令和2年度から小学校，令和3年度から中学校，令和4年度から高等学校で平成29年に公示された学習指導要領がスタートする。子どもたちが変化の激しい社会を生きるために必要な力を育成するために，学校と家庭・地域が連携・協働していく「社会に開かれた教育課程」の実現が求められていく。この研究の成果が，各学校でのカリキュラム・マネジメントの取組の推進につながるように，研修等での活用方法を探っていきたいと考える。

本研究に際し2年間協力をいただいた6名の代表委員と，研究協力校の校長先生はじめ全教職員の方々，そして御指導いただいた名古屋大学大学院 柴田好章教授に心から感謝申し上げます。

### 主な引用・参考文献等

- ・幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）平成28年12月21日中央教育審議会
- ・小学校学習指導要領（平成29年告示），小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編
- ・中学校学習指導要領（平成29年告示），中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編
- ・高等学校学習指導要領（平成30年告示），高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説総則編
- ・文部科学省マネジメント研修カリキュラム等開発会議 2005 「学校組織マネジメント研修～すべての教職員のために～（モデル・カリキュラム）」より
- ・カリキュラム・マネジメントハンドブック（田村知子・村川雅弘・吉富芳正・西岡加名恵編著 平成28年6月ぎょうせい）
- ・『「主体的・対話的で深い学び」実現のためのサポートブックー静岡県総合教育センター研究の軌跡ー』静岡県総合教育センター（平成30年）
- ・「小学校段階における，プログラミング的思考を育成するカリキュラム・マネジメント」 福岡県教育センター（平成30年）